

# Lecture 授業No.83 教科書P.135～

T.Q.「西(スペイン)→蘭(オランダ)→英の  
主役交替とはどういうものか？」

向出 研司: 石川県立寺井高等学校  
地歴公民科教諭

# 直前予習 T. A. キーワード確認

## 教科書 P.135・136

T.Q. 「西(スペイン)→蘭(オランダ)→英の  
主役交替とはどういうものか？」

1. フェリペ2世
2. レパントの海戦
3. ネーデルラント
4. アムステルダム
5. エリザベス1世
6. 中継貿易

クリックで全て



# 今日の授業ラインナップ。

1. オランダの独立をイギリスが援助
2. オランダの盛衰（イギリスに敗れる）
3. 「大英帝国」の基礎を作った  
エリザベス1世の時代

② オランダ T.Q.「西(スペイン)→蘭→英の主役交替とはどういうものか？」教科書P.135～

(1) **オランダ独立戦争** ∵スペイン王フェリペ2世の**日教強制**  
...ネーデルラントの新教徒「**ゴイセン**」が中心(英が支援)

1568	スタート	※1
79	南部10州(今のベルギー。旧教の領主が多い)脱落	※2
	∴ { 北部7州が <b>ユトレヒト同盟</b> 結成	※3
	∴ <b>オラニエ公ウィレム</b> をリーダーに	
18	独立宣言で <b>ネーデルラント連邦共和国</b> に	
(88	<b>アルマダ海戦</b> でスペインが英に敗北)	
1609	独立	

(2) 17C前半、全盛 都**アムステルダム**が栄える ※4①②

∵ **東インド会社**設立(1602)、※5 ジャワ島に**バタヴィア**建設

外:**ケープ植民地**をポルトガルから奪う etc. 今のジャカルタ

外: **東インド会社**設立(1602)、ジャワ島に**バタヴィア**建設  
**ケープ植民地**をポルトガルから奪う etc. 今のジャカルタ

ここから

- (3) 衰退 ∴ 連邦制なのでまとまりが弱い  
中継貿易中心なので国内産業が育たない  
イギリス=オランダ戦争に敗北(17C後半)

### ③ 英

(1) **ジェントリ**(郷紳)...地方行政を担う地主層→議会へ

(2) **毛織物業**さかん ∴ **第1次囲い込み**...農地→牧羊地

cf.「羊が人間を食う」(トマス=モアの『ユートピア』) ※6

(3) **エリザベス1世** ※7 T.Q.「西(スペイン)→蘭→英の主役交替とはどういうものか？」  
教科書P.135~

外: 1 1588アルマダ海戦でスペインの**無敵艦隊**を破る

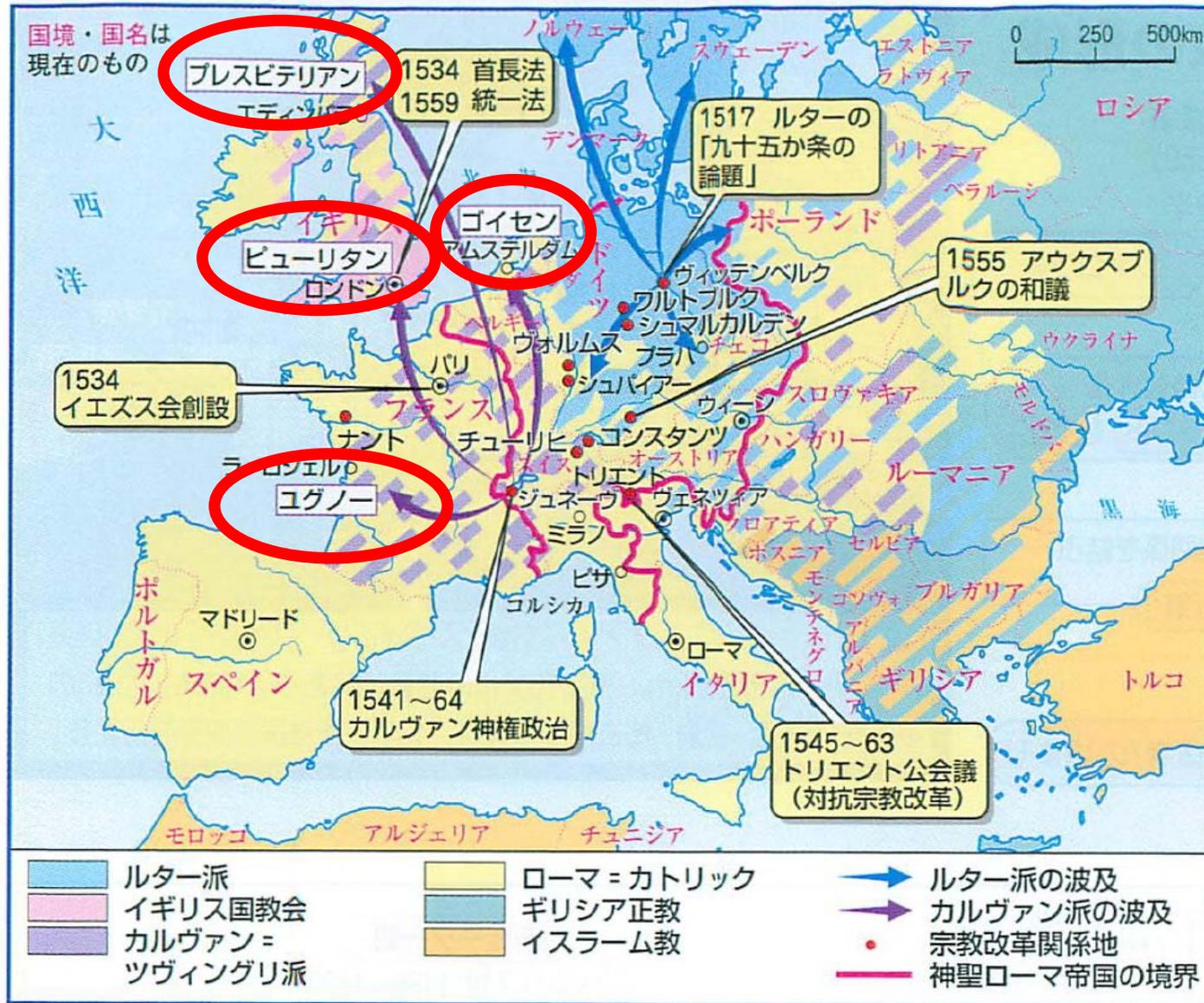
∴ 大西洋の制海権がスペインから英に移る ※8

2 **ヴァージニア植民地**(の土台)

3 1600、**東インド会社**設立 ※T. A. まとめスライドへ

最後のスライドはここまで!

# 宗教改革後の宗教分布(1560年頃)



クリックで、  
カルヴァン派の  
「4つのあだ名」

※2

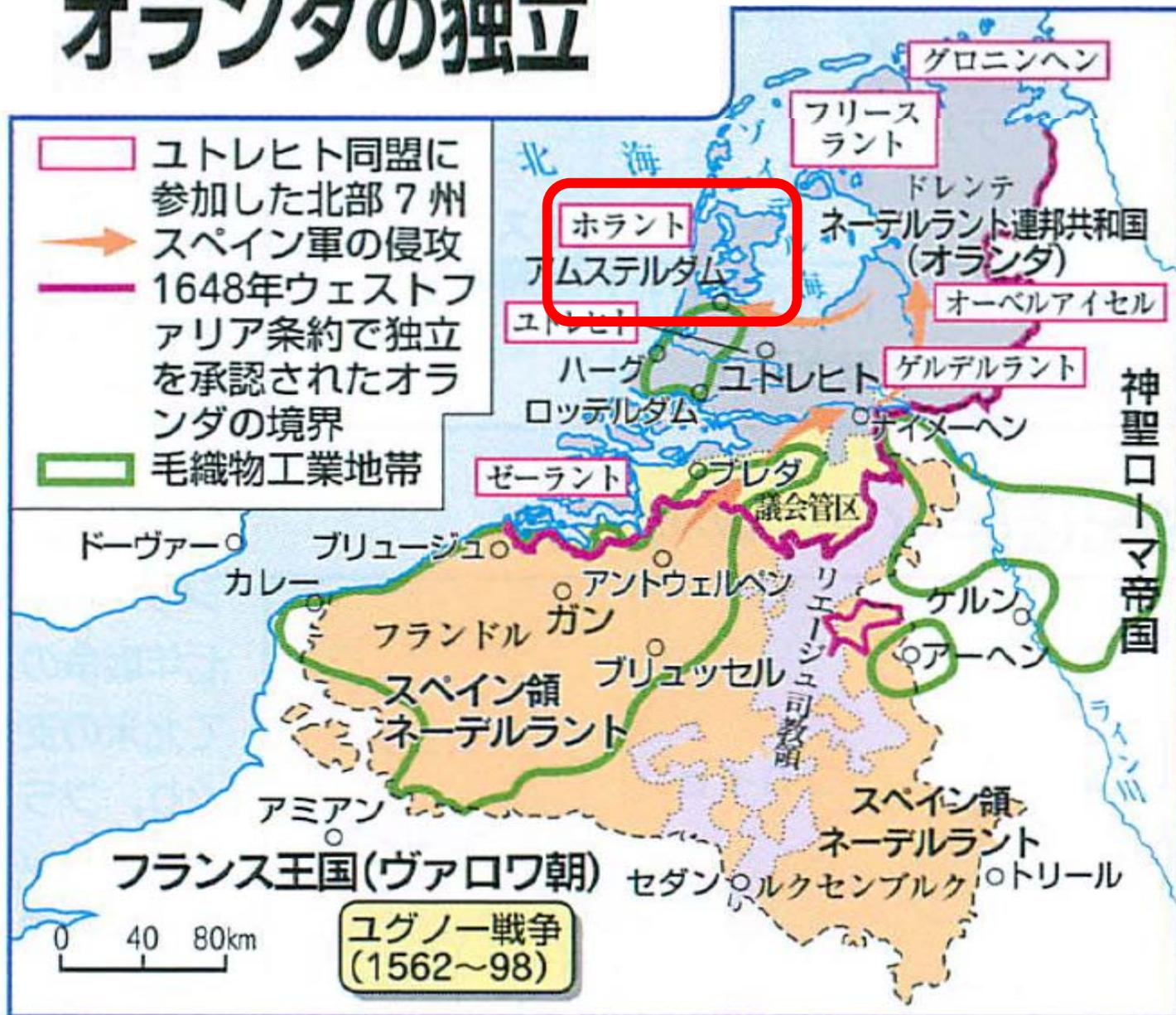
クリックで、宗教の違い

## ● ネーデルラントの南北比較

北部7州(現在のオランダ)		南部10州(現在のベルギー)	
ゲルマン系	民族	ラテン系	
オランダ語(ドイツ語系)	言語	フロン語(フランス語系) フラマン語(オランダ語系)	
カルヴァン派(ゴイセン)	宗教	ローマ=カトリック	
造船・中継貿易・農業	産業	毛織物工業・牧畜	
1581年 独立宣言 1648年 独立承認	独立	1830年(オランダより)	

# オランダの独立

※3



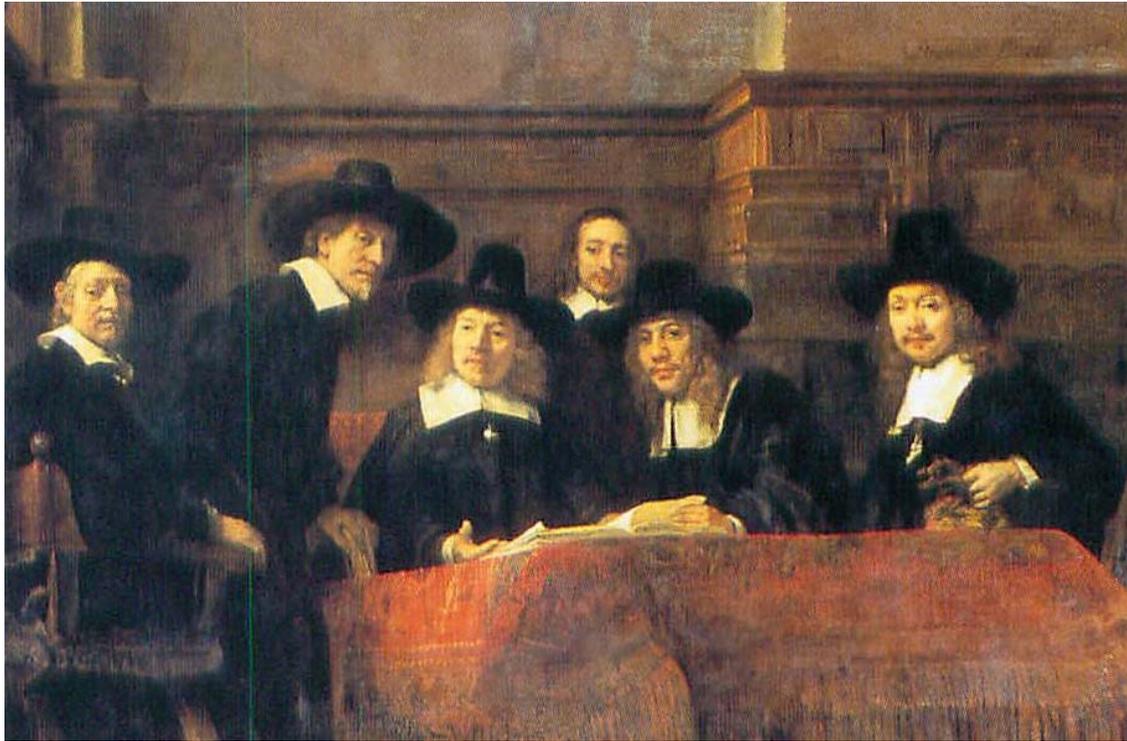
クリックで、  
ホラント州



**Holland**

...ローマ字読みで  
「オランダ」

## ※ 4①next



クリックで、  
自信に満ちた、  
オランダの商人(ビジネスマン)達

### 👉 レンブラント「布地組合の見本鑑査官」

17世紀のオランダは、工業・商業・金融業の分野で他のヨーロッパ諸国に対し圧倒的優位を占め、近代世界システムの「覇権国家」となった。オランダでは特に造船業と毛織物工業が重要で、後者ではイギリスの毛織物を染色して完成品に仕上げていた。

## ※4②back

### ↓オランダのチューリップ



## チューリップ投機 — 球根1つで邸宅が建つ —

オランダは東インド会社をはじめとする株式会社の発祥<sup>はっしょう</sup>の国である。17世紀、中継貿易で大繁栄していたこの国では投機が盛んに行われ、有名な「チューリップ投機」もその1つだった。高級品種の球根1つで邸宅が買えるほどであり、投機熱は1630年代にピークに達したが、1637年に大暴落し、数千人の人々が破産した。

←クリックで、  
オランダの  
チューリップ畑

※5

クリックで、  
**オランダ東インド会社**  
のマーク



← チューリップや  
アムステルダム  
の紋章が入った  
東インド会社の麻袋



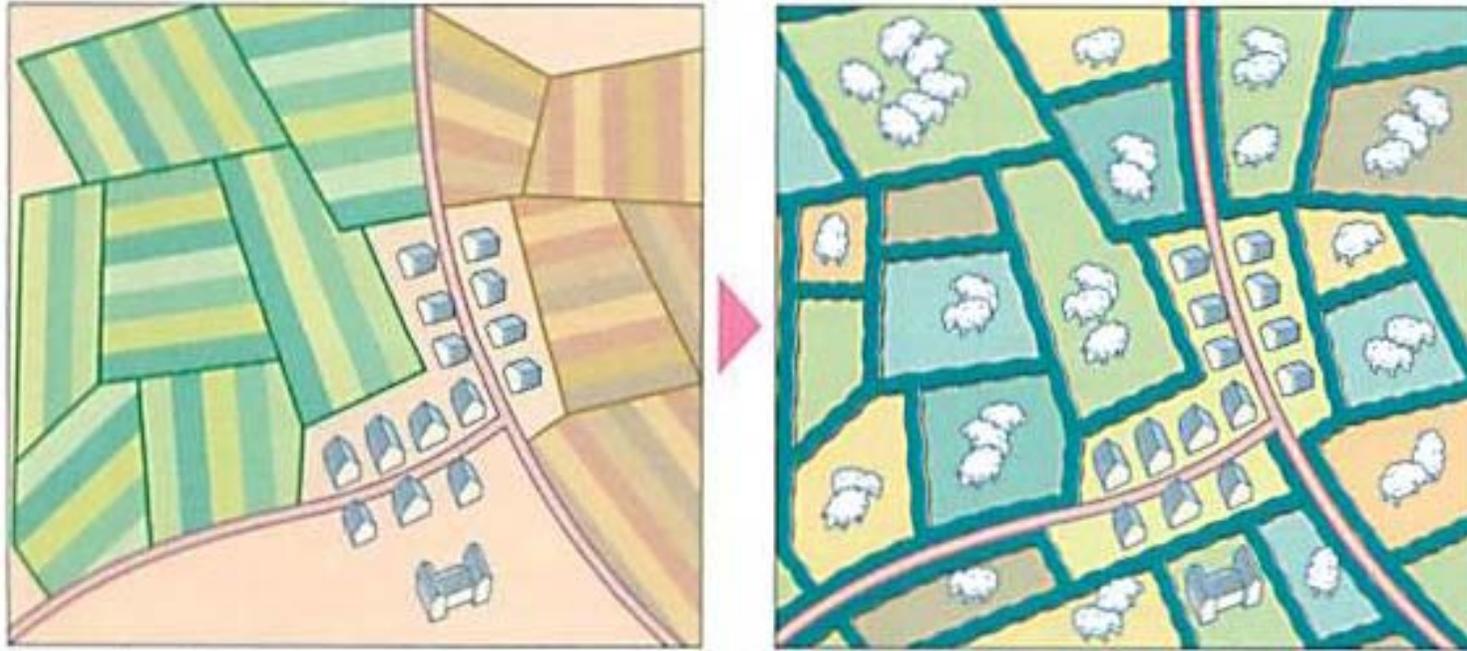
← 佐賀県立  
九州陶磁文化館に  
保管されている  
東インド会社のコイン



九州陶磁文化館に展示されている大皿

## ※6

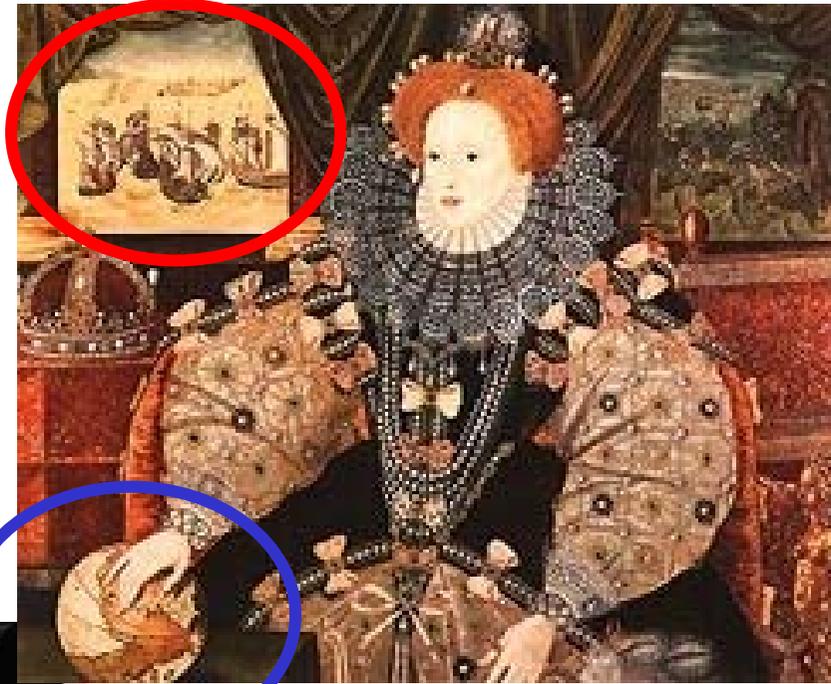
### クリックで、「羊」と「生け垣や塀」で囲った牧羊地



中世に羊毛を輸出していたイギリスは、16世紀には毛織物の輸出国となった。羊毛生産を目的に、従来の「開放耕地」をあらため、<sup>い</sup>生け垣<sup>がき</sup>や<sup>へい</sup>塀で囲んで牧羊地にかえる囲い込みがおこった。農民の一部は浮浪人となり、社会不安が高まった。トマス=モア (P.155, P.324史料)は当時の状況を「羊が人間を食う」という表現で<sup>ふうし</sup>風刺した。

# ※7

クリック①:  
「アルマダ海戦勝利」の寓意  
クリック②:  
「大英帝国の基礎」の  
寓意

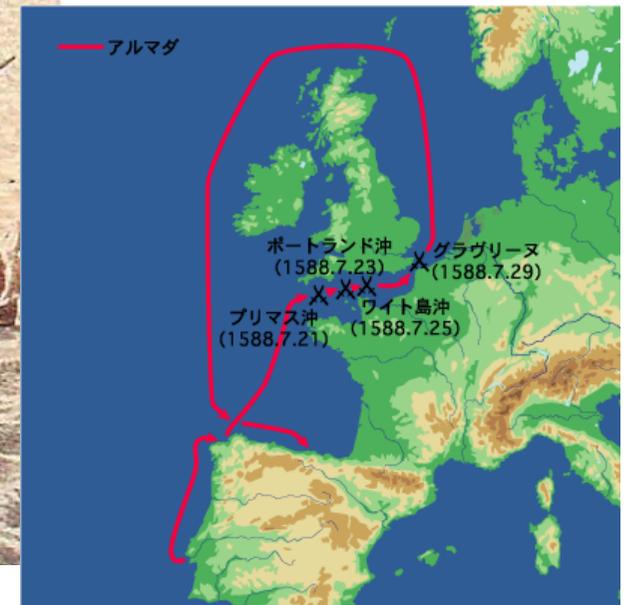


← 「女王陛下」を盛り立てる  
宮廷の貴族＝臣下達

↓ **アルマダ海戦** 130隻の大型船に大砲2500門, 兵2万3000人を積み, イギリス上陸作戦を企てたスペインの無敵艦隊(アルマダ)は, 200隻ほどの小型船に射程距離の長い軽砲を備えたイギリス艦隊に敗れた。無敵艦隊はガレー船を敵艦に体当たりして沈める戦法を考えたが, 狭いドーヴァー海峡では機動力に富む小型船の火力を巧みに使ったイギリスが有利だった。無敵艦隊は帰路, 嵐でも損害を受け, 帰還したのは50隻余り。



※8  
クリックで、  
無敵艦隊の航路 ↓



# 授業No.83

T.Q.「西(スペイン)→蘭(オランダ)→英の  
主役交替とはどういうものか？」

イギリスは、スペインの無敵艦隊(オランダの独立を支援するエリザベス1世に脅しをかけるために派遣された)をアルマダ海戦で破り、オランダの独立を助けるとともに、大西洋の制海権をスペインから奪った。その後、独立に成功したオランダが17世紀前半に全盛を迎えたが、1652年から3回にわたりイギリスはオランダの政治的・経済的な弱み(連邦制で中央集権が弱い・中継貿易中心で国内産業が未発達)につけこみイギリス=オランダ戦争によってオランダを破った。このようにして主役の座はイギリスに移っていった。